

# 施工要領書

## カーペット 標準施工方法

### グリッパー工法

織カーペット・タフテッドカーペットは、施工後使用しているうちに温度・湿度・荷重などにより、伸びや縮みを起こすことがある。カーペットを施工する際、下地にカーペットを固定するグリッパーを用いて張る方法をグリッパー工法と呼ぶ。

### 施工工程



※⑥⑦のジョイントに関する作業を、③の作業の前に行うこともある。

#### ①環境・下地の確認調整

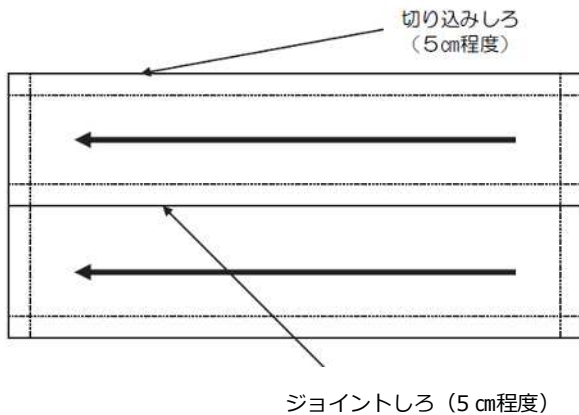
- ・施工時の環境（湿気、温度など）を確認する。問題がある場合は改善策を講じる。
- ・下地の種類、状態（湿気、平滑性、汚れ、表面強度、合板などの場合のたわみ、段差、亀裂など）を確認する。問題がある場合は改善策を講じる。

#### ②割り付け

- ・ジョイントが多くなると仕上がりが美しくないため、できる限りジョイントが少なくなるように割り付けする。そのため部屋の長手方向にジョイントを合わせる。また、小さなサイズは美観を損ねるだけでなく、接着不良による浮き剥がれの原因になるので注意する。
- ・出入口部は踏み込みが多くジョイントからの痛みや剥がれが起きやすいため、出入口部にはできるだけジョイントがこないようにする。また、窓、家具や什器の付近も人がよく通り接合部が痛みやすいため、できるだけジョイントは避ける。
- ・両耳のひずみを切りそろえて施工する必要がある。また、施工の折の裁断に際して、重ね切りをするためのジョイントしろ（5cm程度）、壁際の切りそろえのための施工しろを5cm程度余分にとっておく。

# 施工要領書

## カーペット 標準施工方法



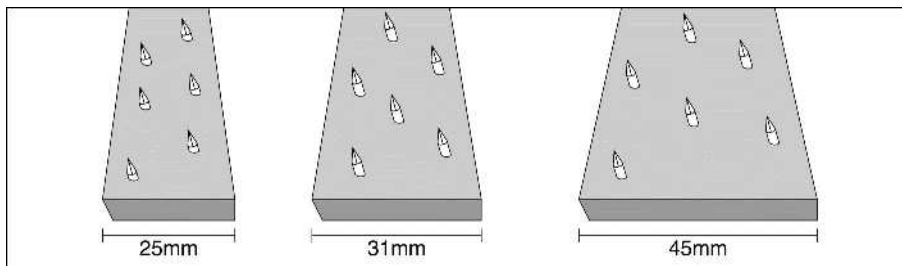
カーペットの両端にひずみがあるため、それをまっすぐに切りそろえてからジョイントする。カーペットは、割り付けサイズそのままには施工できない。カーペットのジョイントは目通しをし、目こぼれをしないように切りそろえる。重なり合う部分（ジョイントしろ）が5cm程度必要となる。また壁際は、トリマーなどで壁につきつけて裁断するため、施工しろが5cm程度必要となる。

### ③グリッパーの取り付け

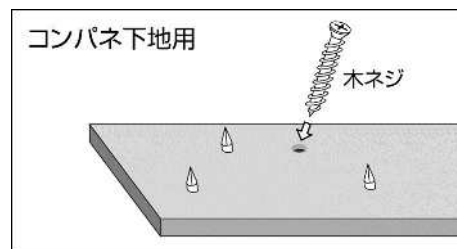
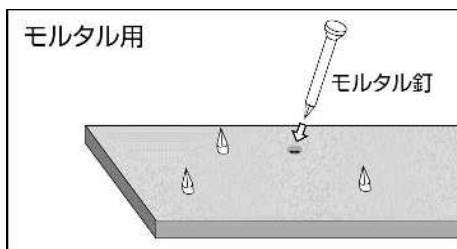
#### 《グリッパーの種類》

必要なテンションの強さや敷いていく場所の面積に応じてグリッパーの幅には、25mm シングル、31mm セミワイド、45mm ワイドのサイズがあるので選択する。踏み込みが多い部分や廊下の突き当たりでしっかり固定させるべきところは、幅の広いものを使用する。またカーペットのパイル長に合わせてグリッパーのピンの選定も必要になる。

ピンの長さには「Aピン約3mm」「Jピン約4mm」「Eピン約5mm」がある。



#### 《下地による取り付け方法の違い》



#### モルタル下地

グリッパーの固定にはモルタル釘を使用する。古いモルタル下地に亀裂などが生じ、モルタル釘だけでは十分に固定できないときは、釘と接着剤を併用する。接着剤は、グリッパーメーカーが販売している専用接着剤か溶剤形接着剤を使用する。

# 施工要領書

## カーペット 標準施工方法

### 木質系下地（コンパネ下地等）

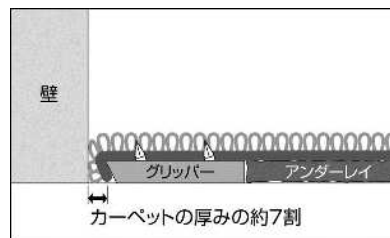
グリッパーの固定には木釘を使用する。強く固定する場合は接着剤を併用する。

### その他（金属系下地、石系など）

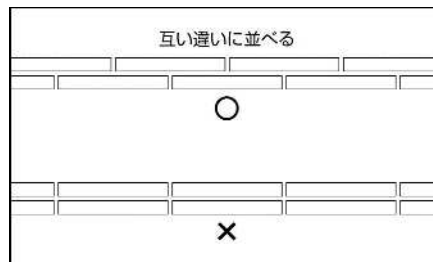
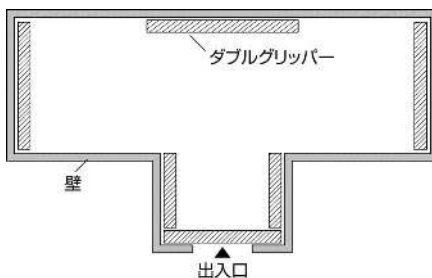
釘は使わず、専用接着剤もしくは溶剤形・反応形接着剤を使用して固定する。グリッパーの裏面と接着する下地の両面に接着剤を塗布し、オープンタイムをとり圧着する。24 時間以上養生し硬化させる。

#### 《グリッパーの取り付け方法》

- ・グリッパーの取り付けは、四方の壁面に沿って均等な間隔（カーペットの厚みの約 7 割）をあけて床に固定する。
- ・グリッパーのピンは斜めになっているのでピンが常に壁面を向くように固定する。



- ・出隅、入隅や人通りが多い場所などたるみの発生しやすい場所は、グリッパーを 2 本並べダブルグリッパーとする。このときグリッパーは下図のように互い違いに並べる。



ドアやアール面、コーナーなどの細かい部分は、グリッパーを小さく切って固定する。また、どんなに小さなグリッパーを固定する場合でも釘は必ず 2 ヶ所打つ。

### ④フェルトの敷き込み

#### 《フェルトの種類》

カーペットを敷き込む際のフェルトの種類には次のようなものがあり、現場の用途や予算に合わせて選定する。

- ニードルフェルト（レジデンシャル用）
- ハイ・クッション（ホテルなどコントラクト用）

#### 《フェルトの敷き込み方法》

# 施工要領書

## カーペット 標準施工方法

- ・グリッパーの取り付け完了後、フェルトを下地面にカーペットを敷く方向と同一に敷き込む。このときカーペットのジョイントとフェルトのジョイントが重ならないようにする。またフェルトはできる限り、切り込まずに真物で敷いていく。



- ・後工程でカーペットをキッカーで伸ばし固定するときに、フェルトが少しずれるため、グリッパーとの間隔は少し透かす。その際、間隔を空けすぎないように注意する。
- ・フェルトの固定方法は、木質系下地の場合はタッカー、モルタル下地の場合はラテックス形接着剤による接着となる。
- ・面積が大きい部屋に敷き込む場合、フェルトがずれないようにクラフトテープでジョイント部分を固定するとよい。

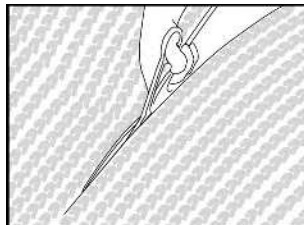
### ⑤ 仮敷き

- ・ある程度巻きジワをとるために製品の仮敷きを行う。
- ・製品のパイル方向は一般的に出入口方向に流す。
- ・ジョイントが必要な場合は光の反射具合を考慮してジョイントが目立たないように考慮する。
- ・パイルの向きが逆になると色柄や本来の美しさが損なわれるためパイルの方向には注意する。

### ⑥ ジョイントの裁断

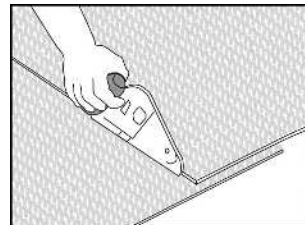
- ・カーペットを敷き込む前にジョイントする部分を切りそろえる。
- ・パイル目に沿って目通しをし、基布をハサミやジョイントカッターなどでカットする。その際パイルを切らないように注意する。
- ・柄物の裁断には、リピート計算をして柄合わせができるように幅と長さを確認する。

【目通し】



カーペットのパイルを傷めないように裁断ばさみの刃先や千枚通し等を使い、切断箇所のパイルをさばいて裁断線をつけ、これに沿ってループパイルカッターやはさみなどで裁断する。

【方目通し】



あらかじめ目通しした材料を上置き、これにあわせて下の材料を切る。

# 施工要領書

## カーペット 標準施工方法

### 《ホツレ防止》

織カーペット（ウィルトン・アキスミンスター）は、裁断面からホツレやすいので裁断の後、ホツレ防止としてラテックス形接着剤を裁断面の地組織に塗布する。特に胴切りカットや斜めカットはホツレが出やすいため注意が必要となる。タフテッドカーペットでも歩行頻度の高い箇所には必要に応じて塗布する事を推奨する。



### ⑦ジョイントの接合

- ・ジョイントは、シーミングテープで接合する。シーミングテープは、ロールカーペットの材質によって様々な種類がある。
- ・シーミングテープの接着剤が付いた側を上にしてジョイントする商品の下に敷く。このときにシーミングテープの中央線が、ジョイントする部分にたゆまないようにセットする。
- ・専用のアイロンを使いシーミングテープの接着剤を溶かしながらジョイントする。その際アイロンの温度に十分に注意する。温度が高すぎるとカーペットのパイルを傷めてしまい、温度が低すぎると接合不足となり剥がれの原因になる。
- ・ジョイント部分をハンマーの柄などで平らにしながら接着する。
- ・アイロン使用后、シーミングテープが固化し、ジョイント部がしっかり固定されたのを確認してから次の作業に移る。ジョイント部の接合が確認されるまではジョイント部に乗らないようにする。



### ※注意事項

- ・基布はジュートバックと合繊とでアイロンの温度が異なるため注意する。合繊は高温に弱い。またアクリルパイルは変色しやすいため、アイロン温度を中程度にする。
- ・柄のあるカーペットではニーキッカーでテンションをかけ、グリッパーに仮止めをしてから柄を合わせた後、シーミング処理をする。

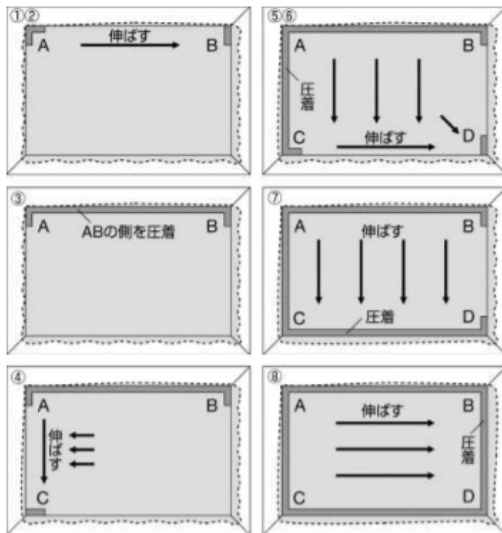
# 施工要領書

## カーペット 標準施工方法

### ⑧敷き込み

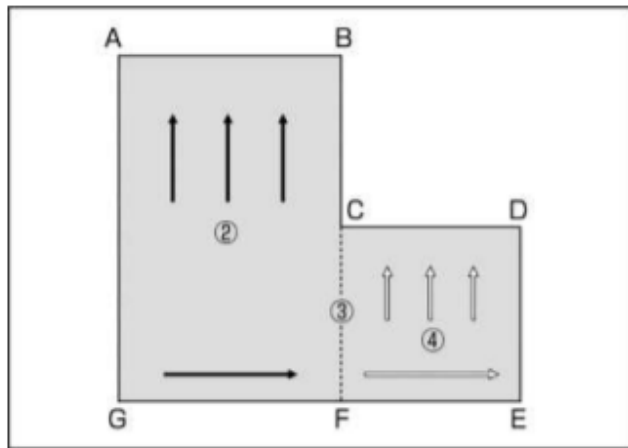
《カーペットの敷き込み順序》

#### ■長方形・正方形の部屋の場合



- ①Aのコーナーを開始点とする。Aの角の両側を30cmほどグリッパーのピンに引っ掛けて固定する。
- ②A点からB点の方へカーペットを十分に伸ばし、B点のグリッパーにやはり30cmほど固定する。
- ③ABの側を全部グリッパーのピンに引っ掛けハンマーの柄などでしごいて圧着する。
- ④A点からC点へ十分に伸ばし、C点のグリッパーで30cmほど引っ掛ける。続いてAC間を固定する。
- ⑤AC間を圧着した後、D点でAD方向に斜めに引っ張り、D点に固定する。
- ⑥C点からD点に伸ばし、CD間をピンに引っ掛ける。
- ⑦CD間のカーペットを引き伸ばしながらグリッパーピンに引っ掛けてよく圧着する。
- ⑧最後にBD間のカーペットを引き伸ばしながらグリッパーピンに引っ掛けてよく圧着する。

#### ■L字型の部屋の場合



- ①L字型の部屋をCFの線で2つの四角に仕切る。
- ②面積の大きい方を敷きこんでいく。
- ③CFの線を伸ばした後、シーミングで接合する。
- ④接合部分を基準として、もう一方の長方形を四角い部屋の場合と同様に敷き込む。

# 施工要領書

## カーペット 標準施工方法

### 《カーペットの敷き込み方法》

- ・壁沿いに周囲をカットロスを含めて荒切りする。
- ・ステアツールやハンマーを用いてグリッパーのピンに引っ掛けて仮止めする。・カーペットの基布をグリッパーのピンに引っ掛けてニーキッカーで伸ばす。広い部屋にはストレッチャーを用いると効果的である。
- ・出隅・入隅部分は、形に合わせてカットした上でキッカーで伸ばす。



### 《ニーキッカーの正しい使い方》

- ・ニーキッカーを正しい位置で持ち、ヘッドが滑らないようにグリッパーの手前 3~4cm 程度の位置で固定する。
- ・ニーキッカーを蹴るときは、必ず同じ力で蹴る。また、ニーキッカーに力を入れすぎてはいけない。勢い余って巾木や壁に当ててしまい、傷をつける恐れがある。
- ・カーペットがグリッパーから外れないようにしている方の手でカーペットを支え、基布をピンに引っ掛けてはいく。

### ※カーペットの伸びの注意事項

多くの人が行く場所や台車などが通る場所では荷重がかかってカーペットは伸びやすい。そのような膨れが発生すると予想される場所は、パワーストレッチャーで十分に引っ張るようにする。小部屋の施工でも伸びやすいので十分に引っ張りを掛けるようにする。

# 施工要領書

## カーペット 標準施工方法

### ⑨ トリミング仕上げ

- ・カーペットの固定が終わったらトリマーで壁際の余分なカーペットを裁断して仕上げる。
- ・トリマーのグリップをしっかりと握り、下方向へ力を入れる。そしてトリマーを壁際に押し付けるようにして壁に沿って前進させカットする。
- ・トリミングが終わったら壁とグリッパーの間にカーペットの端をステアツールなどを使って押し込み、目打ちやアウルなどを使い仕上げる。下地がコンクリートの場合、力任せにステアツールを使うとグリッパーが緩むことがあるため注意が必要である。
- ・掃出し窓や出入り口など、歩行する場所では使用していく際にケガの恐れがあるたグリッパーの頭をつぶしておく。



#### ※トリミング仕上げをするときの確認事項

- ・ジョイントの接合部の継ぎ目はまっすぐか？
- ・柄物の場合は柄と柄が合っているか？  
柄の通りはまっすぐか？
- ・カーペットが十分に伸びきってグリッパーのピンに完全に引っかかっているか？



### ⑩ 養生

施工完了後、床材の浮き、膨れ、剥がれ、突き上げなどの不備、接着剤などによる汚れがないかを確認して監督者と協議の上、床面の汚れや破損を防止するため下記のような処置を行い、必要に応じて養生シートなどで保護する。

- ・土足進入による汚染・損傷を防ぐために土足禁止にする。
- ・養生シートを用いて床面の養生（テープで固定するときは、必ず、床面を汚染や変質させにくいアクリル系粘着テープを使用）を行う。
- ・ジョイントのシーミングテープの接着剤が、完全に乾燥固化するまではジョイントからの剥がれ・目すき・膨れなどを発生させる恐れがあるので重量物などのキャスターによるしごきを避ける。